

現代中国語の方位詞“里”、“中”と空間を表す 名詞との共起関係について —空間構成に関わる名詞を中心に—

寺澤 知美

1. はじめに

現代中国語の方位詞“里”は「一定の範囲内」であることを表すが、“中”についてもその働きに重複する部分が多く存在する。したがって、以下に挙げる例のように互いに置き換えが可能なケースも少なくない。

- (1)……他把她抱到了茅屋中的大炕上。(→茅屋里)¹ (刘心武《人面鱼》)²
[…彼は彼女を抱きかかえてあばら家のオンドルの上まで連れて行った。]
- (2)在我眼里, 你是个陌生人。(→眼中) (王朔《空中小姐》)
[私にとって、あなたは見知らぬ人である。]
- (3)一切都在记忆中, 一想便全想起来, 他得慢慢的把它们排列好, 整理好。
(→记忆里) (老舍《骆驼祥子》)
[すべては記憶の中にあり、一つを思い出せばすべてが蘇ってくる。彼はゆっくりとそれらを順序どおりに並べ、整理しなければならなかった。]

上の例(1)～(3)は“里”、“中”のいずれも用いることが可能である。つまり、具体的な場所を表す場合(例(1))、身体部位名詞と共起して抽象的な意味を表す場合(例(2))、³抽象的

¹ 以下、必要とされる場合についてのみ、例文末尾の括弧内に“里”、“中”の置き換えの可否を示す。

² 例(1)～(3)は北京大学汉语语言研究中心のコーパス<CCL 语料库>による。以下、特に出典の示していないものについてはすべて<CCL 语料库>によるものとする。

³ 身体部位名詞との共起関係については、寺澤 2008 を参照。

な意味を表す語と共起する場合(例(3))など、様々なケースにおいて“里”と“中”はどちらも用いることが可能であるといえる。しかし一方で、これらの方位詞はどのような場合においても自由に置き換えができるというわけではない。たとえば、西槿 2005:185 は[+隠含立体空間]の名詞については、“中”と共起することができないと指摘している。

(4) 我盼望她能从门里出来。(→*门中) (西槿 2005:185)

[私は彼女がドアから出てこられることを願った。]

西槿 2005 のいう[+隠含立体空間]とは、“教室、剧院、图书馆”などのような立体空間を表す[+立体空間]の名詞⁴に対して、“窗、墙、门、帘”などのように、それ自体は立体空間を表さないが、その一部を形成し、「立体空間」としての特徴を隠し持つものを指す。上の例(4)の“门”についても、この[+隠含立体空間]の名詞に該当することから、“中”との共起は認められないことになる。しかし、次の例のように、[+隠含立体空間]の名詞であっても“中”と共起する例もみられる。

(5) 告别的时刻临近, 老人们登上回程的大巴, 但从车窗中伸出的双手却紧紧握住亲人的手不放, ……(→车窗里) <人民网>

[別れの時が近づき、お年寄りたちは帰りのバスに乗り込んだが、バスの窓から両手を出し、肉親の手をしっかりと握って放さない]

例(5)の“车窗中”は“车窗里”に置き換えることができるが、原文のように“中”を用いることも可能である。このような場合における両者のニュアンスにはどのような違いが存在するのだろうか。本稿では、類似する働きを持つ方位詞“里”、“中”の意味機能について、具体的な空間を表す場合における使用状況の分析を通して考察する。⁵

⁴ 西槿 2005:184 はこのほかにも“饭店、瓶子、锅、碗、柜子、院子、笼”などを[+立体空間]の名詞として挙げている。

⁵ 現代中国語の単純方位詞の中には、“里、中”だけでなく、“内”についても類似する働きが認められる。しかし、先行研究においても指摘されるように、“里、中、内”は用いられる文体に違いがみられ、一般に“里”は口語、“中、内”は書面語に用いられることが多いとされ、特に“内”は“中”よりもさらに書面語的色彩が強くなるとの指摘もある(西槿 2005)。以上のようなことから、本稿では、主に“里”、“中”のみを考察対象とする。

2. 本稿の問題提起

西槇 2005:184-185 は、“NP+方位詞”が一定の空間範囲を表す場合について、“具体的空間”、“映像空間喻义空間”、“人体器官的喻义空間”、“无界限的空間”の四つの項目に分類し、それぞれについて詳しく分析を行っている。その中で、“具体的空間”については、名詞の持つ意味的特徴から[+立体空間]の名詞(“教室”、“劇院”、“图书馆”など)と、[+隠含立体空間]の名詞(“窗”、“墙”、“门”、“帘”など)の二種類があるとしている。そして、[+立体空間]の名詞については“里、中、内”のいずれとも共起が可能であるとしているが、⁶前述のように[+隠含立体空間]の名詞については“里、内”のみが用いられ、“中”は用いられないという違いがあると指摘している。この点については、木村 1991 においても“窗”と“门”を例に挙げて詳しく説明されている。

(6) 从窗中射入的阳光

[窓から差し込む陽の光]

(7) 门里传来噉噉喳喳的说话声。

[ドアの中からひそひそと話し声が聞こえてくる。]

(例(6)、(7)はいずれも木村 1991:102 による)

木村 1991:102-103 によれば、例(6)における“窗中”は「『窓の内側』すなわち屋内という意味ではなく、(中略)『窓』という、壁の中に四角く(或いは丸く)くりぬかれた一定の空間的範囲、即ち『枠』の<なか>から差し込む陽の光という意味」となる。また、木村 1991 は、「室内」を指す場合には例(7)のように“里”が用いられるとし、このような場合における“里”は“中”に置き換えることができないと指摘している。つまり、“窗中”は「窓」という「枠の中」と

⁶ 西槇 2005:184 は[+立体空間]の名詞が“里、中、内”と共起する例として次のようなものを挙げている。

a) 其实她猜得出来, 他多半是躲在图书馆里。

[実のところ、彼女には彼がおそらく図書館に隠れていることが推測できた。]

b) 只要他在图书馆中坐下, 或和友人谈起来, 就不用再希望他还能看看钟表。

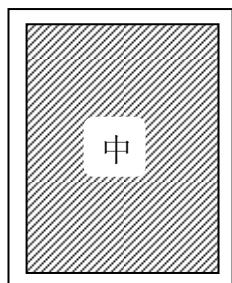
[彼が図書館で腰をおろしたり、友達としゃべりだしたりしたら、時計を見るなんてことは期待してはいけない。]

c) 不在图书馆内, 便在咖啡店里, 山水怀中过活。

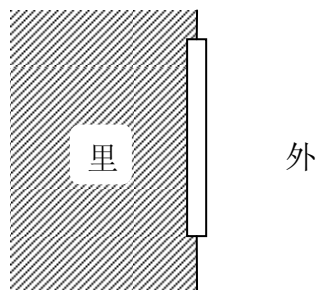
[図書館でなければ、喫茶店におり、悠々自適な生活を送っている。]

西槇 2005 の指摘するように、[+立体空間]の名詞については“里、中、内”のいずれとも共起が可能であるといえる。

して認識され(【図 1】参照)、「窓の内側(室内)」を指す場合には“外”との対比から“中”ではなく“里”を用いて表現されることになる(【図 2】参照)。



【図 1】



【図 2】

このように、“窗”については、“中”と“里”との共起について明確な使い分けが存在するように思われるが、一方で次のような用例も存在する。

(8)……, 一片阳光从东窗里射进来, 照着马而立的娃娃脸。(→窗中)

(陆文夫《围墙》)

[一片の陽の光が東の窓から差し込んできて、馬而立の童顔を照らしている。]

例(8)から明らかなように、陽の光が窓から差し込むことを表す場合には、“中”だけでなく、“里”を用いることも可能であるが、⁷「枠の中」として捉えられる“中”が“里”と置き換えが可能となる場合、両者にはどのようなニュアンスの違いが存在するのだろうか。本稿では、具体的な空間を表す名詞のうち、特に“窗”、“门”、“墙”、“屏风”などの空間構成に関わる名詞と方位詞“里”、“中”との共起状況の分析を通して、“里”、“中”の持つ意味機能について考察を行う。

⁷ なお、このようなケースには必ずしも方位詞が必要というわけではなく、方位詞自体が用いられないことも多い。

a) 早晨, 觉慧醒得很迟, 他睁开眼睛, 阳光已经从窗户射进来, 把房间照得十分明亮。 (巴金《家》)
[朝、覚慧が目覚めたのは遅かった。彼が眼を開けると、陽光はすでに窓から差し込んで来ていて、部屋を明るく照らしていた。]

また、このほかに“外”が用いられる場合もある。

b) 冬日的暖阳从窗外射进来, 照在栗桂英的脸上。 <人民网>
[冬の暖かい太陽が窓の外から差し込んで来て、栗桂英の顔を照らしている。]

上の例 a)、b)はいずれも「窓から陽が差し込む」という状況を表している。このような場合、例 a)のように方位詞を用いないで表現することも可能であるが、例 b)のように窓の「外」から入ってくると捉え、“外”を用いることも可能である。

3. 空間構成に関わる名詞と“里”、“中”との共起関係

前述のように、本稿では具体的空間を表す名詞のうち、特に空間構成に関わるものについて考察対象とする。“窗、门、墙、屏风”などの名詞はいずれも閉鎖空間の構成に関わるという特徴を持っている。たとえば、“墙”、“屏风”などは、ある一定の空間を作り出すことが可能であり、境界の役割を果たすという特徴を持つ。また、“窗”、“门”については、境界の一部を担い、かつ空間の内部と外部とを結び付ける接触点の役割も持っている。これらの名詞については、前述のように「立体空間」そのものを指す名詞の場合とは異なり、後置される方位詞によって表される内容が異なる。次の第 3.1 節では、これらの名詞自体の持つ特徴から“里”と“中”の両方と共起するケースについてみてみる。

3.1 物質の内部を指すケース

空間構成に関わる名詞についても、その名詞自体の持つ特徴から「物質の内部」を指す場合もある。たとえば、“墙”のように一定の厚みがあり、内部に何らかの物質を刺し込んだり、隠したりするようなことが可能な場合については、次の例のように“里”や“中”と共起して「壁の中」を指す。

- (9) ……，拿来了一面镜子和一根钉子，说道：拿锤子来，你把钉子钉进墙里，把镜子挂上。(→墙中) (王小波《不新的〈万历十五年〉》)

[鏡を一枚と釘を一本持ってきて言った。かなづちを持って来て、釘を壁に打ち込んで鏡を掛けなさい。]

- (10) 据考证，这些藏在浴室中的美元是由已故富翁帕特里克-邓恩在大萧条时期藏在墙中的，……(→墙里) <人民网>

[考証によれば、これらの浴室の中に隠された米ドルは、今は亡き大富豪のパトリック・ダンが大恐慌の時期に壁の中に隠したものであり]

上の例(9)は壁に釘を打ち込むこと、例(10)は浴室の壁の中にお金が隠されていることを表しており、これらの例はいずれも“里”、“中”の両方を用いることが可能である。このように、何か「物質の内部」に入り込んでいることを表す場合には“里”、“中”のどちらも用いることができる。つまり、空間構成に関わる名詞についても、閉鎖空間を構成するという特徴に

焦点が置かれない場合には、その名詞自体が持つ特徴に基づき「物質の内部」を表すことも可能であり、その場合には“里”、“中”のいずれも用いることができるといえる。⁸次に、閉鎖空間を構成する名詞が方位詞“里”と共起して「空間の内側」を表すケースについてみていく。

3.2 閉鎖空間の内側を指すケース

前述のように、空間の内側を指す場合には“里”が用いられる。たとえば、“窗户”の場合には“里”と共起して「窓」の内側の空間を指す。

(11)……,看着一幢幢鳞次栉比的高楼大厦,她心里问自己,哪扇窗户里住着外公外婆呢?(→*窗户中) (《作家文摘》1997)

[鱗のようにびっしりと立ち並ぶ高層ビルを見ながら、彼女はどの窓におじいちゃんとおばあちゃんが住んでいるのだろうかと心の中で自問した。]

(12)那女人在窗户里说话了:“鹿相,扫了地,给那棵玉兰树浇桶水。树早了。”

(→*窗户中) (陈忠实《白鹿原》)

[あの女が窓の内側で言った。「鹿相、掃除をして、あのハクモクレンの木にバケツ一杯の水をやりなさい。木が枯れそうだよ。」]

上の例(11)、(12)はいずれも「窓」の内側の空間、つまり「窓」の付いている建物の内部を指している。このような場合には、“里”を“中”に置き換えることはできない。また、“窗户”と同様に、“门”や“墙”についても“里”と共起して家の中、あるいは敷地内を指すことが可能である。

⁸ “里”、“中”のいずれとも共起が可能となるケースには、次のようなものもみられる。

a) 为此,他付出了惨重的代价——在铁窗里度过了三个春秋。 (《作家文摘》1994)

[これによって、彼は鉄格子の中で三年の歳月を過ごすという大きな代償を払うことになった。]

b) 李庆霖做梦也没有想到,六年后的六月,他会被作为“反革命犯”在铁窗中度过人生的下半辈子。

(《报刊精选》1994.06)

[李慶霖は六年後の六月に彼が「反革命犯」として鉄格子の中で残りの人生を送らされることになるとは夢にも思わなかった。]

上の二つの例は「鉄の窓の中」、つまり、刑務所のことを指している。このように、「窓の内側」という実質的な空間を指すのではなく、比喩的に用いられる場合には、“里”だけでなく“中”を用いることも可能となる。

(13) 这个门里住着一家姓钱的, 他们搬走过一次, 可是不久又搬了回来, ……

(→* 门中) (老舍《四世同堂》)

[この門の内側(家)には錢という苗字の一家が住んでいる。彼らは一度引っ越していったが、また戻ってきた]

(14) 墙里是一个庭院, 庙墙有好几处已经塌了。(→* 墙中) <百度>

[塙の内側は庭で、寺の塙はすでに何ヶ所も崩れている。]

例(13)、(14)では“門”、“牆”という閉鎖空間の構成に関わる名詞に“里”が後置され、それぞれ“門”、“牆”の内側の空間について言及されている。これらの場合についても、“里”を“中”に置き換えることはできない。⁹

さらに、空間を間仕切る働きを持つ“屏風”の場合についても、作り出された空間の内側を指す場合には“里”が用いられる。

(15) 当我织布的时候, 不管有什么事, 也不能往屏风里看呀!(→?? 屏风中) ¹⁰

<百度>

[私が布を織っているときには、何があっても決して屏風の中を覗いてはいけません。]

例(15)における“屏风里”は「屏風によって間仕切られた空間の内側」を指す。“屏風”とは「室内にたてて、風よけや目隠しに使う道具」であり、“屏風”をたてることによって、閉鎖性は決して高くはないが、境界の外部からの視線をある程度遮ることの可能な内部空間が作り出される。

⁹ ただし、実際には次のような用例もみられる。

如果每对大兔每月生一对小兔子, 而每对小兔生长一个月就成为大兔, 并且所有的兔子都全部存活, 那么1年后围墙中有多少对兔子? (《中国儿童百科全书》)

[大人のうさぎが毎月一対の赤ちゃんうさぎを生むとします。その赤ちゃんうさぎが一か月で成長して大人のうさぎになり、さらにすべてのうさぎが生存するとしたら、一年後には囲いの中に何対のうさぎがいるでしょうか。]

上の例では“中”を用いて「囲い」の内側の空間を指しているが、インフォーマントによってはこのようなケースに“中”を用いることに違和感を覚えるようであり、やはり「ある範囲の内側」を表す場合には、“里”を用いるのが一般的であるといえる。

¹⁰ 「屏風によって間仕切られた空間の内側」を指す場合には、“中”を用いることはできないが、“屏風”の種類によっては(たとえば透かし彫りの屏風など)、間仕切られた空間の内側の様子を“屏風”を通してある程度確認することが可能なケースもあり、場合によっては“中”を用いることも可能となる。

以上のように、一定の閉鎖空間の内側を指す場合には、基本的に“里”と共起し、“中”とは共起しにくい傾向がみられる。しかし、類似する状況を表す場合であっても、“里”だけでなく“中”を用いることの可能な場合もある。

(16) 彭克站在门里没有说什么, 倒是王大嫚笑着说:……(→门中) <人民网>

[彭克はドアの内側に立って何も言わなかったが、王大嫚が笑いながら言った]

(17) 终于到家了, 看见他还在门中等着, 心中不禁一热, 一股暖流涌上心头。

(→门里)

<百度>

[ついに家に着いた。彼がまだドアのところで待っているのを見て、思わず心が熱くなり、暖かいものが胸にこみ上げてきた。]

例(16)、(17)は閉鎖空間を構成する名詞“门”の例である。“门”の場合にも境界の内側を指す場合には例(16)のように“里”と共起することが多いが、例(17)のように“中”と共起する例もみられる。これはどのような理由によるものであるのか。邢福义 1996 は「境界義」を表す名詞¹¹が“里”と共起して“外”との対比を表す場合には、“里”を“中”に置き換えることはできないと指摘している。

(18)a 张三站在大门里, 盯着在外面劈柴的李四。

[張三は玄関の内側に立って、外でまきを割る李四を見つめていた。]

b[?]张三站在大门中, 盯着在外面劈柴的李四。

(邢福义 1996:6)

邢福义 1996 が指摘するように、境界を表す“大门”は例(18b)のように“中”と共起すると不自然な表現となる。しかし、ここでポイントとなるのは、「外」との対比に焦点が置かれるか否かが問題となるという点である。つまり、話者の認識として、境界の「内側」であるか否かに焦点が置かれない場合には、“中”との共起の可能性も生じると考えられる。したがって、先の例(17)のような表現が許容される背景には、「彼がドアのあたりで待っていた」ということが重要なのであり、彼がドアの内側で待っていたのか、それとも外側で待っていたのかとい

¹¹ 邢福义 1996:6 では“窗、墙、门、门坎、竹帘”などの名詞について“划界义”を表すとして分類されている。

う情報は重視されないという事情が推測される。

以上のように、空間構成に関わる名詞についても、空間の内側か外側かという点に焦点が置かれない場合には“里”だけでなく“中”とも共起する例がみられるが、次の第 3.3 節では、これらの名詞が“中”と共起して「枠内」を表すケースについてみていく。

3.3 枠内を表すケース

前述のように、閉鎖空間の内部に関わる内容について言及される場合であっても、“里”だけでなく“中”も用いられるケースが存在するが、次の例のように閉鎖空間の内部の状態そのものについて言及する場合についても、“里”、“中”の両方を用いることが可能となるケースもみられる。

(19) 晚上访人, 只要看窗里有无灯光, 就约略可以猜到主人在不在家, ……

(→窗中)

(钱钟书《写在生人边上》)

[夜、人を訪ねる時、窓の中に明かりが灯っていなかったら、大概主人は不在であると推測することができる]

(20) 白天坐在窗台上看来往的人群, 晚上象现在这样坐在顶层看着对面大楼窗户中的灯一盏一盏的熄灭。(→窗户里) <百度>

[昼間は出窓に座って行きかう人たちを見て、夜は今のように屋上に座って向いのビルの窓の明かりが一つずつ消えていくのを見ている。]

例(19)、(20)ではいずれも室内に明かりが灯っているか否かが問題とされており、「窓の内側」の状態そのものについて言及されている。このような場合、例(19)のように“里”を用いて「窓の内側」の状態について言及することは当然可能である。しかし一方で、例(20)のように“中”を用いることも可能である。“窗户中”は“窗户里”のように「窓の内側」の空間を直接表すことはできないが、既述のように“中”には「枠の中」を表すという働きがあることから、「窓」という「枠」を通して室内の状態を確認することができる場合には、結果的に「窓の内側」の状態について言及することが可能となる。つまり、例(19)、(20)に言及される「窓の内側」の状態、すなわち「明かりが灯っているか否か」については、外部との接点である「窓」を通して外部から確認することが可能であることから、“里”だけでなく“中”との共起も可能となるのである。

以上のように、閉鎖空間の内部の状態について言及される場合については、“中”に前置される名詞が一つの「枠」として認識され得るというだけでなく、閉鎖空間の内部の状態をその「枠」を通して外部から確認できることが必要となる。したがって、先の例(11)、(12)のように、これらの条件を完全に満たさない場合には、“中”を用いることはできない。

(21)……,看着一幢幢鳞次栉比的高楼大厦,她心里问自己,哪扇窗户里住着外公外婆呢?(→*窗户中) (例(11)再掲)

(22)那女人在窗户里说话了:“鹿相,扫了地,给那棵玉兰树浇桶水。树旱了。”
(→*窗户中) (例(12)再掲)

例(21)、(22)では閉鎖空間の内部の状態について言及されているが、その状態について外部から直接確認することは難しい。つまり、誰かがそこに住んでいる様子(例(21))や部屋の中で話している声(例(22))といった要素については、「明かりが灯っているか否か」のように、「窓」の外から直接目で見て確認することが困難であるため、このようなケースには“中”を用いることができないのである。

但し、例(22)と同様に「音」について言及されるケースであっても、“中”との共起が可能となる場合もある。

(23)不知名的小鸟在树上婉转的唱着歌,朗朗的读书声从窗户中传出,……
(→窗户里) <百度>
[名前も知らない小さな鳥が木の上で美しい声で歌っており、明るく澄んだ読書の声
が窓から聞こえてくる]

例(23)では、本を読む「声」が窓を通して外に聞こえてくる様子が描写されている。当然のことながら、「声」というものは目で見て確かめることはできないが、ここでは“从窗户中传出”と表現されているように、「声」が境界の内側から外側へと“窗户”という「枠」を介して移動しているというように捉えられることから、“中”との共起が可能となっていると考えられる。つまり、室内の状態そのものについて言及されていた先の例(22)とは異なり、例(23)では境界の内側から外側へという「声」の移動が表現されており、ここでの“窗户”は「声」の「通過点」としての役割を担っているといえる。なお、このような解釈は先の例(5)のケースにつ

いてもあてはまる。

(24) 告别的时刻临近, 老人们登上回程的大巴, 但从车窗中伸出的双手却紧紧握住
亲人的手不放, …… (例(5)再掲)

例(24)はバスという閉鎖空間から手が出ている状態を表しているが、この場合、“车窗”という「枠」を通して空間の内側から外側に手が出ているというように理解される。つまり、例(24)の“车窗”は先の例(23)の“窗户”と同様に「通過点」の役割を果たしているといえる。

また、既述のように例(24)の“车窗中”は“车窗里”に置き換えることが可能である。

(24)' 告别的时刻临近, 老人们登上回程的大巴, 但从车窗里伸出的双手却紧紧握住
亲人的手不放, ……

“车窗中”を“车窗里”に置き換えた例(24)'では、例(24)と同様に「閉鎖空間から手が出ている状態」が表されているが、“车窗里”が表すのはバスの窓という「枠の中」ではなく、バスの窓の内側の空間、すなわち「(バスの)車内」である。したがって、この場合「(バスの)車内から手を出す」というニュアンスとなる。介詞“从”は先の例(23)や(24)のような「通過点」だけでなく、「起点」を表す働きも持っているが、例(24)'の“车窗里”は手が出てくる場所、つまり「起点」を表しているといえる。

なお、ここまで“窗户”を例に挙げ「枠内」を表すケースについてみてきたが、“窗户中”が「枠内」として捉えられる場合、その「枠」を境界とする内側の空間と外側の空間の出入りは双方向が可能となる。つまり、例(23)や(24)のように閉鎖された空間から外(「内から外」という方向だけでなく、「外から内」という方向で用いることも可能である。

(25) 晨曦从窗户中透进, 而蜡烛仍在燃烧。 (《读者》总第 131 期)

[朝日が窓から入ってきたが、蝋燭はまだ燃えていた。]

(26) 由于一楼已经淹没在水中, 卢展工书记只得从窗户中钻进楼房。 <百度>

[一階は既に水につかっていたので、盧展工書記は窓から建物にもぐり込むしかなかった。]

例(25)、(26)はいずれも「窓」という「枠」を通して、「外から内」に向かって何かが入ってくる様子を表している。つまり、これらの場合における“窗户”は閉鎖された三次元的空間に入るための入り口、「通過点」として認識されている。

これに対して、“里”は「空間の内側」という認識に結び付くことから、「窓」の内側の空間を指す場合(例(11)、(12))や、あるいは「窓」を起点とする「内から外」への動きを表す場合(例(24)')のみに用いられることが予測されるが、実際には先の例(8)のような例が存在し、「外から内」への動きを表す場合にも用いられる。

(27)……, 一片阳光从东窗里射进来, 照着马而立的娃娃脸。 (例(8)再掲)

例(27)は「窓から太陽の光が差し込んでくる様子」が表現されており、「外から内」への動きを示している。また、同じく外部との接触点の役割を持つ“门”についても、“里”を用いて「外から内」への動きを表すことが可能である。

(28)我的钥匙丢了, 我无法从门里进去。 <人民网>

[私は鍵をなくしてしまったので、玄関から入ることができない。]

「窓」や「ドア」が閉鎖空間への出入り口として認識されている例(27)、(28)における“窗里”、“门里”がすでに「空間の内側」を指していないことは明白である。これらの例に共通しているのは、いずれも“里”を省略することができるという点である。したがって、「ドアや窓から入る」という意味を表す場合、次の例(29)のように方位詞そのものが付加されないことも多い。

(29)咱们知道, 他不是从门进来的, 不是从窗进来的, 也不是从烟囱进来的。¹²

(《福尔摩斯探案集》)

¹² 「窓」や「ドア」から入ることを表す場合、例(29)のように方位詞を用いないで表現されることが多く、“里”を用いることに違和感を覚えるとするインフォーマントも少なくない。つまり、「窓」や「ドア」から外に出ることを表す場合には、閉鎖空間の「内側から外」に出ると認識されるため、“里”を用いても何の問題もないが、“窗(戸)里”や“门里”の表現には「空間の内側」を表す働きがあることから、閉鎖空間の「外から内側」に入ることを表す場合には矛盾が生じる。このようなことから、あるインフォーマントからは“门里”を用いた表現について、「ある部屋から別の部屋に入る」というようなシチュエーションをイメージするというコメントを得た。つまり、ある空間の内側から別の空間の内側への移動として捉えていることになる。いずれにしても、“里”については、「範囲の内側」を指すという働きが非常に顕著であるといえよう。

[我々は、彼がドアから入ってきたのではなく、窓から入ってきたのでもなく、また煙突から入ってきたのでもないことを知っている。]

つまり、例(27)、(28)のように“窗”、“门”が外部から内部への通過経路として認識されるようなケース¹³においては、“里”が付加されていても特に空間的位置関係は表しておらず、“里”の付加はあくまで文法的な必要によるものであると考えられる。

なお、文法的な必要による方位詞の付加については、木村 1991:103-104 に次のような指摘がある。

“从学校里回来吃饭”(中略)のように、<なか>という語彙的な意味はさほど濃厚でなく、むしろ文法的な要請(つまり、“在”や“从”の目的語は場所表現の形を明確にとらなければならないという文法的な約束)に応じてくっついている“里”一言い換えれば、語彙的であるよりもむしろ文法的である“里”は、“中”に置き換えると不自然になってしまいます。

つまり、文法的な必要による方位詞の付加の場合、“中”ではなく“里”が用いられやすいということになる。木村 1991 のこのような指摘は、「空間の内側」を表す“里”が、例(27)、(28)のような「外から内」という一見矛盾するケースにおいて多用されることの要因の一つとなっていると考えられる。したがって、先の例(25)、(26)のように“中”が用いられている場合には、やはり“中”の持つ「枠内」を表すという特徴から、「窓」という「枠」を通して入ってくるというニュアンスが強調されているものと考えられる。

このほか、「枠内」を表すケースとしては、次のようなものも挙げられる。

(30) 快把老虎从屏风中赶出来吧，我这里已经准备好了! <百度>

[はやく虎を屏風の中から出して下さい。私の方は準備できましたよ。]

(31) 那屏风中的女子是谁? <百度>

¹³ 黄利恵子 2002:111-112 では、場所目的語(L)の方位詞の必要性について言及されている。その中で、「“V1+V2+L”構文においては、その方向性動詞の性質によって、共起するLに対する方位詞付加の必要性が異なる」とし、動詞“进”が「経過点」を表す場合、方位詞を必要としないと指摘している。本稿で議論する「窓やドアから入る」のように、「窓」や「ドア」が通過経路として用いられる場合についても同様のことがいえると考えられる。

[あの屏風の中の女の子は誰ですか。]

例(30)、(31)はいずれも屏風に描かれた動物や人物について述べているが、このように屏風に描かれた内容について言及する場合については、“中”だけでなく、“里”も用いられる。

(32)……, 我端着煤油灯的手不禁有些发抖, 灯光不停地闪烁起来, 一些奇怪的黑影在屏风上晃动, 仿佛画中的男人真要从屏风里走出来了, …… <百度>
[石油ランプを持った私の手が思わず少し震え、灯りがひっきりなしにちらつく。不思議な黒い影が屏風の上で揺れ動き、まるで絵の中の男が本当に屏風の中から出てくるみたいで]

例(32)では、「屏風に描かれた絵の中から人が出てくるようだ」と表現されているが、この場合、“中”ではなく“里”が用いられていることから、単なる「枠の中」というニュアンスではなく、屏風に描かれた絵という二次元的世界に疑似的な立体感が生じる¹⁴。

さらに、“屏風”が“里”と共起する場合には、前述のように「空間の内側」を指すことも可能なことから、たとえば例(31)の“屏风中”を“屏风里”に置き換えた場合、多義となる。

(33) 那屏风里的女子是谁?

[あの屏風の中/内側の女の子は誰ですか。]

例(33)は「屏風」に描かれた絵としての女の子という解釈と、「屏風」の内側にいる実在の女の子という解釈の二通りが可能となる。

¹⁴ 例(32)のように、“里”が用いられることによって疑似的な立体感が感じられる例には、この他にもたとえば「窓に姿が映し出されること」を表現するようなケースが挙げられる。

回家的地铁上, 我看着玻璃窗里映出的自己的脸, 苍白臃肿, 面无表情, 那真不是一张讨人喜欢的脸。
(→玻璃窗中、玻璃窗上) <百度>

[帰宅の地下鉄で、私はガラス窓に映し出された自分の顔を見ていた。青白くて、ぶくぶくしていて、表情がない。それは本当に人に好かれる顔ではない。]

上の例のように、「窓に何か映し出される」というような場合には、“里”や“中”だけでなく、“上”も用いることが可能である。“中”を用いた場合には「窓」という「枠の中」に、“上”を用いた場合には「窓の表面」に映し出されるというニュアンスになる。これに対して、この例のように“里”を用いた場合には、「窓」に映し出された姿に疑似的な立体感が感じられる。

以上のようなことから、閉鎖空間の内部について言及される場合、「空間の内側」を表す働きを持つ“里”だけでなく、「窓」や「ドア」が閉鎖空間と外部とをつなぐ一つの「枠」として認識され、その「枠」を通して内部の状態を確認することが可能な場合や、あるいはその「枠」が境界の「内から外」という移動の際の「通過点」として認識される場合には“中”も用いることが可能となるといえる。

4. まとめ

以上の考察から、空間構成に関わる名詞(“窗、門、墙、屏风”など)に後置する“里”、“中”はいずれも「物質の内部」を表すことができ(例(9)、(10))、さらに“里”は「空間の内側」(例(11)～(16)など)、“中”は「枠内」(例(20)、(23)、(24)、(25)、(26)、(30)、(31)など)を表すことが可能であるといえる。ただし、閉鎖空間の内部について言及されるケースであっても、窓やドアが外部との接触点の働きを持つ「枠」として認識される場合には、“中”との共起が可能となるケースもあり、それには次の二つのパターンが存在する。一つ目のパターンは対象となる「空間の内側」の状態を「枠」を通して外部から確認することが可能な場合(例(20))であり、もう一つのパターンは、境界の「内から外」という移動の際の「通過点」として認識される場合(例(23)、(24))である。また、“里”は「空間の内側」を表すことから、たとえば「陽の光が窓から差し込む様子」など、「外から内」への動きを表す場合には用いられにくいことが予測されるが、実際にはそのような制限はみられない(例(8)など)。これは、窓やドアが「外から内」への通過経路として認識されるような場合、“里”の付加は文法的要求によるものであり、空間的位置関係を表さないことによるものと考えられる。

[参考文献]

- 木村英樹 1991.「窓の中から陽が射し込みますか?!」,『中国語学習 Q&A101』,相原 茂・木村英樹・杉村博文・中川正之著,大修館書店(2003),102-105頁。
- 黄利恵子 2002.「現代中国語における“V+上+L”構文—“上”の終結性をめぐって—」,『多元文化』第2号,名古屋大学大学院国際言語文化研究科 国際多元文化専攻,107-117頁。
- 寺澤知美 2008.「現代中国語の方位詞と身体部位名詞との共起関係について」,『ことばの

- 科学』第 21 号, 名古屋大学言語文化研究会, 5—19 頁。
- 郭振华 1990. 〈方位词“内”和“里”〉, 《第三届国际汉语教学讨论会论文选》, 北京语言学院出版社, 453—459 页。
- 吕叔湘 1965. 〈方位词使用情况的初步考察〉, 《汉语语法论文集(增订本)》, 商务印书馆, 291—300 页(2002), (原载《中国语文》1965 年第 3 期)。
- 吕叔湘主编 1980. 《现代汉语八百词(增订本)》, 商务印书馆, (1999)。
- 罗日新 1987. 〈“里、中、内”辨异〉, 《汉语学习》第 4 期, 13—16 页。
- 西槇延子 2005. 〈“里”“中”“内”的比较研究〉, 『中国語學研究「開篇」』vol.24, 184—193 页。
- 邢福义 1996. 〈方位结构“X 里”和“X 中”〉, 《世界汉语教学》第 4 期, 4—15 页。